



福井県PTA

◆発行者: 福井県PTA連合会 会長 山本久徳 広報委員会

◆発行所: 〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333

◆ホームページ: <http://www.fukui-pta.jp> (社)日本PTA全国協議会 <http://www.nippon-pta.or.jp/>◆E-mail: mail@www.fukui-pta.jp

第61回 日本PTA全国研究大会 みえ大会



子育てを考える



福井県PTA連合会
会長 山本 久徳

みえ大会の全体会開会式で、弾んだ前奏に
続いて大きな声で歌が歌われました。

1. 春風そよそよ 吹く窓に 小鳥もくるくる とんでくる
明るい窓よ ほほむ顔よ さくらの花咲く 春の唄
みんなでいっしょに うたおうよ
2. みどりに輝く 学校が 明るい家庭を よんでいる
希望の町よ 希望の村よ 文化の光に 手をのべて
子どもといっしょに 進もうよ
3. あふれる力に 健康に 子どもがよんでる おどってる
みどりの秋よ もみじの丘よ こころも楽しい ハイキング
子どもといっしょに おどろうよ
4. 世界を結んだ 大空に ひびいて子どもの 胸がなる
あしたの鐘よ 夕べの鐘よ 平和で住みよい 日本を
みんなでいっしょに つくらうよ

これは、PTAの歌として、昭和26年に一般
公募され、現・石巻市である宮城県登米町
出身の春日紅路氏(本名: 春日静雄)の作
品が入選したそうです。当時の会報誌によ
れば「素直な子ども、心も身体も健康な子
ども、辛抱強く、そして常に何かを考えてい
る子ども。ほくは新しい日本の子どもの姿
をそのように夢みている。そしてまた、学校
と結びつく理想的な家庭をほくは次のよう
にも考えている。節度のある教養と愛情で
常に家庭を明るくしている父であり母。
子どもたちといっしょに考える親。そうし
た家庭の子どもたちはきつと素直で健康
で、明朗であるにちがいない。人間性豊かな
教師と理解ある親たち、両者が堅く美しく
直結するときはじめて希望も花咲き、新し
い日本の教育も確立するのではないだろ
うか。子育てに深い関心と、不思議なほどの強
い郷愁を感じているほくは、そうしたことを

考え、夢みながらこの歌をつくった。」と
語っておられます。

子どもたちへの期待や、その子を育む親た
ちやPTAへの期待が込められた詩になっ
ているこの思いは、60年を超えた今も変わ
りません。忘れてはならないものだと思
います。

今年度も「子どもたちの幸せ みんなでサ
ポート」笑顔とありがとうがこだまする
ように「」をスローガンとして活動をしてい
きます。

子どもたちを育てる原点は家庭であり
ます。愛情あふれる場になるよう自らも願
いながらも、日々の子どものたちの様子を十
分目を向けていくことはなかなかでき
ません。「普通」であることに満足し、一方で
は「普通」とは何だろうかと反問してい
ます。子どもたちを取りまく社会的な問題
は年々複雑になり、「まさかうちの子は大丈
夫だろう」とよそ事のようなところも確
かにあるのです。

子どもを見守ることの大切さは承知して
いながら、何をすればよいのか、どうすれば
よいのか具体的に表現することは難しいです。
しかし、子どものことをしっかりと認め、子ど
もに笑顔で接していくことが、まず大切であ
ると思うのです。春日紅路氏のPTAの歌に
寄せる思いのように、親が節度のある教養
と愛情のもと笑顔でいることが、子どもの
感情を安定させ、自尊感情も培われていく
のではないかと思います。

今年度、10月26日に開催します研究大会
は、県PTA連合会の各常置委員会が分科
会を開き、会員のみなさまと直接話し合い
ができるように計画しています。是非、参加
していただき、多くの会員のみなさまと話
し合い、希望の花のたねをご家庭に持ち帰っ
ていただきたいと願っております。

CONTENTS

◆会長あいさつ

1

◆福井県幼・小・中PTA活動『地区別研修会』実施報告 2~3

◆第61回日本PTA全国研究大会みえ大会 参加レポート 4~6

◆第69回東海北陸ブロックPTA研究大会 みえ大会

6

◆『風疹』は子供の病気?ほんとに怖いのは『大人の風疹』

7

◆第55回福井県PTA連合会研究大会 開催

8

6月15日
(土)

坂井地区

坂井ブロック長 田本 憲恭
高棟公民館「たかむく古城ホール」

当日は約100名の参加者にて、来賓祝辞を坂井市教育長川元利夫様に頂き、講演と実践発表、意見交換の二部構成で盛大に開催されました。

講演は元三万中学校長の若新一雄様を講師に招き「親の後ろ姿、得意技で子育てを」と題し、笑いあり涙ありの感動する講演でした。特に我慢強さ、粘り強さ、温かさ、優しさの人間の木の根に当る4つの「さ」を身に着けるには、親の後ろ姿、愛情、得意技が重要であり、何でもよいから子どもと得意技を一緒に行うことが大事だと、御自分の父親からハーマニカを習ったことを例にとり、実演しながらの話は印象に残りました。

実践発表は大関幼・小学校PTAが発表テーマを「地域での子供たちの安全についての取り組み」とし、下校時の見守り隊の活動を「無理をせずできる時間にできる場所」を念頭に、PTAが核となり人員不足の問題を、創意と工夫と団結力で活動する発表。次に、丸岡中学校PTAの「子どもと地域と共に歩むPTA」のテーマで、組織説明と各委員会の年間を通しての活動を沢山の写真を使って分かり易く説明し、今年度の基本方針・運営方針の実践発表と内容も豊富に発表されました。特に「毎年同じだからと言わず、新しいことに取り組む、企画をする。」の実践で、生徒、保護者の問題や、子育ての悩みを丸岡中学校独自のメールボックスによる相談コーナーの開設については沢山の質問が集まりました。両校とも大変参考になり、坂井市のPTA活動はとても盛んで実のあるものだと感じました。

6月29日
(土)

福井・永平寺地区

福井・永平寺ブロック長 水島 秀晃
県生活学習館 多目的ホール

平成25年6月29日(土)県生活学習館多目的ホールにおいて、福井・永平寺ブロック地区別研修会を開催いたしました。開会式にて来賓である福井市教育委員会生涯学習室長小川敏幸様にご挨拶を賜り、その後講演、実践発表と参加者一人一人の心に響く、意義のある研修会でありました。

講演には講師として和田教育研究所所長和田周平様をお迎えし、「親の言葉ぐせが子どもの人生をつくる」と題して、日々の暮らしの中で私たちが親として見直さなければならぬこと、子どもに対する「無条件の愛」とは何か、ということを通して心温まる講演をいただきました。

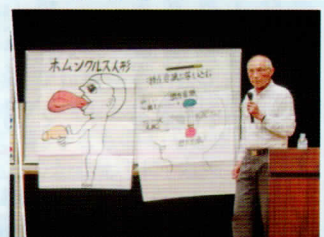
「子どもや家族が不幸になる人は、親が「不幸語」を多く使っている。口に入れる食べ物で体がつくられるように、耳に入れる言葉で心ができる。幸せ、楽しいと言いつづけていると子ども達も自分も幸せなんだと思ひ、自信が湧き、迷うことなく幸せな方に向かい幸せな人生を送る。」と先生はおっしゃいます。『そして何より大事なことは頭で分かったと理解して終わるのではなく、実際に毎日の暮らしの中で実践していくこと。どうか毎日、「うれしい」、「たのしい」、「しあわせ」、「ありがとう」を何回も何回も言うてください。そして、前向きに生きていく子に育てましょう。』と締めくくって下さいました。家庭教育の大切さを教わった、大変貴重な講演でした。

実践発表では、幼・小・中それぞれを代表する発表が続きます。まずは光の子幼稚園より保護者会である「花・花会さんの発表です。行事や活動など、本当に様々な24の活動を通して、子ども達の為に力を尽くそうと、自らの意志で立ち上がる保護者会を目指している事を伝えていただきました。皆さんいきいきと活動しており、なにより子ども達の笑顔が最高でした。

次に小学校を代表して松本小学校PTAの皆様です。三世代交流を目的とした「松本まつり」を目指し、地域と子ども達が一体となつて地域の願い事3,333枚を集集し、それが見事な羽になり真っ赤な不死鳥をつくりあげました。この願いのの一つ一つが絆を繋いでくれる事と思います。

最後に中学校を代表して足羽第一中学校PTAの皆様です。48年間継続している「母校訪問伝」、そのたすきに込められた人々の「想い」。それは子ども達の地域への「感謝」の心。友人、親、先生、母校、郷土へと広がる無限の「恩」。先生方、保護者、地域の「想い」。一言では語りきれないそれぞれの想いの「たすき」がつながれます。

会場を埋め尽くした皆さんの皆様のご来場をいただき、盛会となりました事に感謝いたします。皆様のご家庭が笑顔と幸せに つつまれます事を心よりお祈り申し上げます。



PTA活動地区別研修会

実施報告

**6月23日
(日)**
奥越地区

 奥越ブロック長 今保 政明
 勝山健康福祉センター「すこやか」

奥越地区は勝山市教育長の梅田幸重様を来賓に招き、同地区の各幼稚園・小・中学校から約120名の参加者が集まり、地区別研修会を開催しました。



講演の部は「健康で長寿・越前福井の食は人を作る―食べ物作りは人作り―」をテーマに、天谷学園理事長である天谷祥子様に講演をしていただきました。

◎食育とは「人」を「良」く「育」てる
 ◎食育は「食」である

のとおりに、家庭教育の大切さ、危険な日本の「食」事情を学ぶことができました。また二名のアシスタントの方が、蒲鉾・果物を見事な包丁さばきでアレンジしてくださり、「食」の楽しさも学ぶことができました。

実践発表では、大野市有終東小学校PTAみつば会の「PTA活動を楽しもう!」、勝山市荒土小学校PTAの「家庭から地域へ」の発表がありました。両発表とも大変工夫されており、「どうせするのなら楽しく」「地域の特色を生かした活動」等、参考になる内容でした。

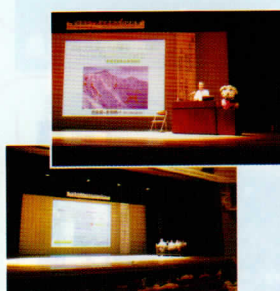

**6月30日
(日)**
丹南地区

 丹南ブロック長 井上 常宏
 越前市文化センター中ホール


丹南地区の講師は、福井警察署スクールサポーターであり福井市安居中学校前校長の山本利幸様でした。演題は、「よろこびを力に」登山とマラソンの魅力をとおして「で、登山の経験をもとに山の素晴らしさ、自然の偉大さなどをお話しいただきました。最後に、過酷な経験をすることによって、人と人のつながりや何かをなし得た時の喜びを知って欲しいと話されていました。

また、実践発表校は越前町立朝日小学校PTAで、活動は地域の方に協力いただいている資源回収と地区のお年寄りへ招待状を出し、一緒に競技を行う体育大会と家庭や地域の子育て力の向上を図るための保護者学級に取り組んでいるという内容でした。

もう一つは越前町立朝日中学校PTAで、活動は小学校区別の生徒の帰宅時間帯の見まわり活動と朝日小学校や丹生高校との連携活動を積極的に取り組んでいました。中学生と高校生の日程調整に苦慮していますが、地域の子どもが6割近く通学している事を鑑みるとお互いに無理のない計画を続けていきたいと語っていました。

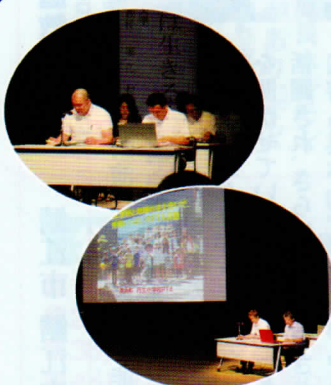

**7月6日
(土)**
嶺南地区

 嶺南ブロック長 宇都宮 直樹
 美浜町生涯学習センター「なびあす」


研修会では、仁愛大学の堀江和代名誉教授による「食べる力は生きる力」という演題で食育に関する講演を頂きました。食べる力には、3つの力がありタイミング良く食べる力、ボリュームを知る力、バランス良く食べる力があり、これらの力を身につけて美味しく調理し、感謝して食べることが大切であるという事でした。改めて食事の大切さを実感し、我々が子ども達に食に関して教育して行かなければいけないと思いました。

実践発表では、美浜町丹生小学校PTAと大飯町名田庄中学校PTAによる取組が発表されました。この両校はどちらも児童数・PTA会員数が少なく、地域と連携を取りながら活動を行った心とむものでした。発表の中に出てくる子ども達の笑顔で活動している姿がとても印象的でした。今年度の県PTAのスローガン「こどもたちの幸せ みんなでサポート」笑顔とありがとうがこだますように、子ども達も笑顔で生活出来る環境をPTAが中心となり今後も作って行きたいと思いました。

最後に、地区別研修会を開催するに当たり多くの皆様にご協力を頂きました事を深く感謝するとともに、これからも一人でも多くの会員の皆様に参加をお願いしたいと思っています。



第1分科会／組織運営

鯖江市中央中 木下 幸太郎



この猛暑の中、笑顔と出迎える言葉が、私達を迎えてくれました。道路わきや会場の際で頑張っておられた地元PTAの方々のおもてなしです。表舞台ではない、陰の支えがあつてこそ、学ぶ環境があることを私達は忘れてはならないと感じました。第1分科会のテーマは「組織運営」でしたが、研修会場入りの前の、組織論の大前提を気づかせて頂きました。

基調講演は、小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトマネージャー萩野慎二氏の話で、主に世界最

メインではありませんでしたが、「はやぶさ」を支えた人間力がキーワードでした。組織運営は、リーダーの信念とチームを信じる力が大切で、チームを構成する一人一人の協調性と主体性も重要だと萩野氏は示していました。また予測できないことを予測し、先に起こり得るリスクを想像する力も大切なキーワードであると。いずれにしても、「はやぶさ」という精密機械を支えたのは、データや数値化できない見えない人間力であつたことは言うまでもありません。組織運営の肝を数多く学んだ分科会でした。



第2分科会／家庭教育

鯖江市 鯖江中 板倉 行規



基調講演は「子どもの才能の伸ばし方」というタイトルで、かつて日本のシンクロナイズドスイミングのヘッドコーチも務めておられた一般社団法人井村シンクロクラブ代表・井村雅代さんのお話を聞かせていただきました。さすが世界を舞台に活躍され、さらに実績を残されただけあつて、話の内容も具体的に説得力のあるものでした。特に印象に残ったのは「親のマネージャー化」について。最近の親は子どもに失敗させないために口や手を出し過ぎていて、その結果子どもたちは失敗からの立ち直り方がヘタになつてきているとのことでした。

子どもたちには失敗させられる失敗はさせてみて、どうやったら立ち直れるかを自分で考えることができる「心の才能」を伸ばしてあげることが大事だということでした。

また、オープニングのアトラクションに登場した名張市立名張中学校オーケストラ部は三重県唯一のオーケストラ部です。歓迎ムードいっぱい、とても素敵な演奏を披露していただきました。



第61回 日本PTA

分科会 平成25年9月23日(金)三重県内11分科会(10会場)

全国研究大会 みえ大会 参加レポート

第9分科会／環境教育

勝山市 荒土小 長岡 渉



環境教育の分科会に参加しました。テーマは「森・海・人とのつながり」です。多森成子さん(気象予報士・気象キャスター)による「お天気から考える地球環境」についての講演があり、天候の変動によって地元の植生に影響が出ている話を拝聴しました。

また、地元小学校による実践発表では、鳥羽市立加茂小学校PTAからは、山の健康診断を行って間伐作業を行っている様子を、志摩市立立神小学校PTAからは、真珠やアオサの養殖体験を通じて地元産業を学んでいる様子を知ることができました。

両校に共通する姿勢、即ち、座学ではなく体験を通して、感動と共に学ぶPTA活動を見習うべきでしょう。福井県でも、『ESD(持続可能な開発のための教育)』活動を積極的に取り入れ、自然を学び、自然と共に成長していくべきだと感じました。



特別第1分科会／生活習慣

越前市 武生第二中 井上 常宏



研究発表者は、伊勢市立厚生中学校3年酒徳波和さん。基調講演者は、東北大学加齢医学研究所教授の川島隆太さんでした。研究発表者の酒徳波さんは、勉強した能力を発揮する為にはどのような形で行動すると発揮できるかということ自身を体を使った実験結果の発表でした。最後に結果をもとに「能力を最大限に引き出す10の秘策」を紹介しました。同じ年代の子を持つ親として、彼女の熱意と研究内容に感動を覚えました。

基調講演者の川島教授は、脳科学の研究者でゲーム「脳トレ」の監修をするなど多方面で活躍されている方で、「早寝早起き朝ご飯が子どもの将来を決める」という演題で、研究成果をもとお話をいただきました。一昔前までは、朝ご飯を食べずに学校に来る子どもが多かったのですが、最近ほとんどが朝ご飯をとるようになってきているそうです。しかし、朝ご飯の内容を調べると、心の発達や脳の発達に必要な栄養素が足りない結果が出ています。おかずをもう一品増やす運動を広げてくださいと訴えていました。



最後に、10時以降に成長ホルモンが出るという研究結果があり、子どもたちが健やかに心も体も成長する為にはテレビを見ることなく睡眠をとることであると訴えていました。日本PTAの研究大会に参加し有意義な内容で、満足することができました。



分科会 平成25年8月23日(金)

- 第1分科会<組織運営> 活発な組織作りに取り組もう(津市)
- 第2分科会<家庭教育> 今、子どもたちに必要なこと、私たちができること(名張市)
- 第3分科会<学校教育> 生きる力・学びを支える学校力(松阪市)
- 第4分科会<広報活動> 魅力ある広報紙でPTA活動を活性化しよう(伊勢市)
- 第5分科会<地域連携> 地域で子育て伝えてつなぐきらめく子どもの未来(桑名市)
- 第6分科会<人権教育> いのちの教育(伊勢市)
- 第7分科会<国際理解> 自分たちができる「国際理解」(四日市市)
- 第8分科会<健康安全> 子どもたちの健やかな成長のために(亀山市)
- 第9分科会<環境教育> 森・海・人とのつながり(志摩市)
- 特別第1分科会(日本PTA担当) ～生活習慣～ 早寝・早起き・朝ごはん(伊勢市)
- 特別第2分科会(文部科学省協力) 地域住民や民間企業と学校が協働した新たな「復興」(四日市市)

第61回 日本PTA全国研究大会 みえ大会

参加レポート

全体会

平成25年8月24日(土)三重県営サンアリーナ メインアリーナ

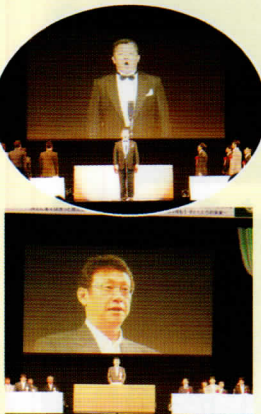
アトラクション・開会式 越前市 南越中 藤井 智正

全体会は、24日に三重県営サンアリーナにて行われました。開会前のオープニングセレモニーは、「川曳き 陸曳き 子ども木遣り」でスタート。続いて「神恩太鼓」の演奏。20年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮に合わせたアトラクションの披露でした。

公益社団法人日本PTA全国協議会の谷明彦副会長による開会のことばで始まった式典は、同協議会尾上浩一会長とみえ大会安藤大作実行委員長が主催者あいさつを行いました。安藤実行委員長は、「日本PTA全国研究大会の歴史を振り返ると、昭和28年第1回の全国大会が、当時の宇治山田市(現在の伊勢市)で開催された。その後60年の時を経て再び『はじまりの地』三重県で開催するという意義、想いを、スローガン『みえに集えばきつと見える…三重からの『わ』』はじまりの地で語り育もう 子どもたちの未来」に込めた。」とあいさつの中で述べました。

下村博文文部科学大臣、石垣英二三重県副知事の来賓祝辞に引き続き、鈴木健一伊勢市長が、「ようこそ伊勢市へ。ひとつでも多くお土産を買って帰ってください。」と、歓迎のことばを発しました。

その後、大会宣言を満場一致で決議。功労者へ感謝状を贈呈し、



大会旗を次回開催地である長崎大会の実行委員長への引き継ぎを行って、式典を閉じました。

今回はじめて、PTAの全国大会に参加しましたが、とても素晴らしい大会でした。



記念講演 福井市 和田小 坂 昭宏



全体会記念講演は、世界的ヴァイオリニストの川井郁子さんのお話を聞くだけなかと思っていたところ、演奏もたつぷりの構成でした。

ご自身の子どもの頃は特に積極的なタイプではなかったそうですが、「ヴァイオリン演奏の時は人が変わるね」と先生に言われていたそうです。その一言が今日に結びついたと容易に想像できました。

ご自身の出産をきっかけに、自分の子どもだけではなく、世界中すべての子どもたちの幸せを心から願うようになり、ユネスコ活動を始めたそう、子育てに関するトークはたいへん良かったです。

世界でも超一級品のアントニオ・ストラディヴァリウスの奏でる音色と大画面のスライド内容との調和で一層、感動のひと時に浸っていた次第でした。



第69回 東海北陸ブロックPTA研究大会 みえ大会

平成25年8月24日(土)三重県営サンアリーナ メインアリーナ

今年の東海北陸ブロックPTA研究大会の式典部分は、日本PTA全国大会全体会終了後、同じ会場で開催されました。

安藤大作東海北陸ブロック協議会会長のご挨拶、尾上浩一日本PTA全国協議会会長の来賓祝辞に引き続き、感謝状贈呈および日本PTA広報紙コンクールの表彰式が執り行われました。

福井県関係では妙願貴子さん(福井県PTA連合会前母親代表副会長)が安藤会長より感謝状を贈呈され、坂井市立丸岡中学校が広報紙コンクールで佳作に入賞し、尾上会長より表彰されました。おめでとうございました!



『風疹』は子供の病気なの？

ほんとに怖いのは『大人の風疹』



福井県PTA連合会 安全会審査委員

(田中病院院長) 田中 廣昌

以前は、およそ5年〜10年くらいの周期で流行があり、好発年齢は5〜15才、晩冬から初夏にかけてよくみかけられたのですが、最近は季節感もなくなってきました。

平成6年に予防接種法が改正されて以来、大流行は抑制されてきましたが、昨年は約2,400人と、過去5年間で最も多く、今年に入ってから既に14,000人を超え、過去最悪のペースになっております。それでも9月になって流行も一段落したようです。患者さんの七割以上が男性で、そのうち20〜40才代が八割を占めているそうです。

『風疹』とはどんな病気

風疹は子供に多い病気として知られ、麻疹(はしか)と似ていますがウイルスも異なり、症状も軽く、感染力も弱い軽度の感染症なので「三日ばしか」とも呼ばれています。

潜伏期が過ぎると軽い発熱、同時に、顔から全身に赤い発疹、耳の後ろから首筋にかけてリンパ節の腫れなどの症状が現れます。

風疹ウイルスに感染している患者さ

んの咳やくしゃみで飛び散る飛沫を介してうつります。潜伏期間は2〜3週間ですが、患者さんに発疹が出る前1週間と、発疹が出だしてから1週間ほどの間は、風疹ウイルスを撒き散らしているので注意が必要です。

子供のうちにかかる症状も軽く、約30%が感染しているのに症状が出ない不顕性感染や、発疹が唯一の症状という場合もあり、流行時以外では診断に苦労するケースもあります。血清学的診断が確定診断となります。

稀に重篤な合併症を併発することもありますので軽視は禁物です。

大人の風疹

最近では思春期や成人、特に男性の感染する割合が高くなってきました。

20〜40才代男性の15%は、風疹の抗体を持っています。一方、20〜40才代女性の4%は抗体がなく、11%は抗体価が低く、充分でないことが分かっています。

大人になってからかかると症状が

重くなる傾向があり、重くなると髄膜炎や脳炎を起こすこともあります。

特に妊娠初期の女性が感染すると、赤ちゃんの目や耳、心臓などに生涯残るような障害が出る「先天性風疹症候群」を発症する危険性が高まります。

妊娠4週目までの「先天性風疹症候群」発症確率は60%以上、15週目くらいで8%もありますが、20週を過ぎるとほとんどないと言われています。

妊娠中は予防接種も受けられず、家族や同居の人たちが、ウイルスを家の中に持ち込まないような、妊婦を守るための感染予防が重要になります。

さらに女性は、予防接種後3ヶ月間は、避妊が必要になります。

治療と予防

風疹に効く特効薬はありませんので、症状に応じた対症療法というようになります。

ワクチン接種は風疹の罹患や流行防止を目的としています。最大の目標は妊婦の「先天性風疹症候群」を予防することです。

過去に感染歴があったり、予防接種を受けていても、数年が経過すると抗体が消失してしまうことがあります。風疹抗体価が16倍以下なら再接種が必要です。また、接種してから抗体ができるまで2〜3週間かかりますから、接種したからすぐ大丈夫というものはありません。

MRワクチン(混合ワクチン)

風疹のワクチンには、風疹だけを予防する「単独ワクチン」と、麻疹と風疹の二つを予防する「混合ワクチン」があります。成人には麻疹抗体の少ない人も多いので、価格の問題もありますがMRワクチンがお勧めです。

接種制度が何度も変わりましたが、現在は定期接種の積極的勧奨年齢として1歳児、小学校入学前1年間の子、中学1年生、高校3年生が対象になっていますが、対象以外の方でも、抗体価が充分であると確認できた方以外の方は、予防接種をお勧めします。

免疫を持っている人が接種を受けなくてもなんら問題はありません。ワクチン接種早見表を参考にして予防接種を受けましょう。

MRワクチン接種回数早見表

		麻疹		
		罹患歴なし・不明・曖昧		検査で確定された麻疹罹患歴
風疹	罹患歴なし・不明・曖昧	接種歴なし・接種歴不明	接種1回	接種2回
	接種歴なし・接種歴不明	MR×2回 2回目 4週後以降	MR×1回 希望に応じ2回目を4週後以降に	
	接種1回	MR×2回 2回目 4週後以降	MR×1回	MR×1回、または、 風疹HI抗体価を検査; 16倍以下ならMR×1回
	接種2回	MR×2回 2回目 4週後以降 ※風疹免疫 はあり	MR×1回 ※風疹免疫 はあり	接種不要 希望に応じ風疹HI抗体価 を検査; 16倍以下ならMR×1回
検査で確定された風疹罹患歴				

日本プライマリ・ケア連合学会

お知らせ

第55回
福井県PTA連合会

研究大会

10月26日(土) 福井県生活学習館「ユー・アイふくい」にて開催

子どもたちの幸せ みんなでサポート～笑顔とありがとうがこだまするよう～

優しく思いやりにあふれるそんな気持ちを子どもたちに伝えたい。子どもたちのために出来ること、皆さんで考えてみませんか？

○分科会(12:30～13:30)

第1分科会(子育て委員会) 自己肯定感を育て、心を元気にする方法

～子どもが自分のことも家族や友達のことも大好きになるために～と銘打ったこの分科会では、「宝物ファイル」を使って子どもたちの自己肯定感を育てる実践をされている立待小学校の岩堀美雪先生を講師にお招きしています。自分を認める事が、回りの人を認める事につながる。心が健康になるための最大の要因=自己肯定感についてみんなで楽しく考え、親子でさらに幸せな人生を歩みませんか？

第2分科会(生涯学習委員会) ちょっと気になる隣の三原則

子どもたちの健全な育成のカギは家庭生活にあります。家庭生活のリズムの大切さを皆さんで考えます。「うちの子寝るの遅いんです」「うちは朝ご飯、家族みんなで食べてますよ」「恥ずかしがり屋であいさつ苦手みたいです…」「仕事が忙しくて、寝顔しか見てないです…」なんでもいいんです。話してみませんか？きっとヒントがみつかります！

第3分科会(広報委員会) 広報さんいらっしゃ～い! ～広報紙コンクール優秀校からヒントを盗め～

昨年の福井県PTA広報紙コンクールで上位に入賞された学校の当時の広報紙担当者をお招きして、その記事を取り上げた意図や制作エピソードなどをパネルディスカッション形式でお聞きし、「魅力あるPTA広報紙」のヒントを探りたいと思います。今後の広報紙作成の参考になること間違いなし！
＜参加予定校＞・坂井市 丸岡中学校PTA(平成24年度最優秀賞)・福井市 木田小学校PTA(平成24年度優秀賞)・福井市 和田小学校PTA(平成24年度優秀賞)

第4分科会(環境委員会) みんなで語ろう福井の自然 『ヤシャゲングロウから学ぶ』

環境分科会は『自然環境をもう一度見つめなおし、将来子ども達の為に考える』分科会です。奥野元教育長様をお迎えして絶滅危惧種『ヤシャゲングロウ』を通じて自然環境・自然保護についてそして今必要な事について講演をいただきます。その後に学校生活・家庭生活・自然環境について一緒に語り合い、福井の自然環境マップを作しましょう!!



第5分科会(特別委員会) 楽しいPTA活動にめざめて (単位PTA活動における諸問題についての意見交換)

特別委員会は、県PTA連合会の、前年度の常任理事で構成されている委員会、委員は、市PTA連合会、郡PTA連合会、単位PTAの会長などを経験している方々です。特別委員会が担当する分科会では、「PTA主催行事の参加率が低い。PTAへの意識が低い。役員の受け手がいない。様々な情報が少ない。」等々、各単位PTAがかかえる諸問題について、率直な討議ができればと思っています。他の学校のPTAは、どう取り組んでいるか、どのように解決したのか等の意見交換や、経験豊かな特別委員の意見など、少しでも参考にして、楽しい活発なPTA活動に繋がればと願っております。

○全体会・『一筆啓上・我が家の三原則』表彰式(13:40～)

今回初めて日本PTA全国研究大会に参加させていただきました。『全国』という響きにどんな特別なことをするのかわかりませんが、子育てに関する思いや悩みは全国共通で、自分自身を振り返る良い機会をいただきました。来年の全国研究大会の会場は長崎県。ちよつと遠いですが、皆さんも機会があればいろいろな話を聞かれます。今年のおすしめしです。内容盛りだくさんで、今の県PTA研究大会は必要ながきつと見つかると思っています。多くのの方の参加お待ちしております。

広報委員会 委員長 板倉 行規

編集後記

○講演(14:30～) 講師 笑福亭 竹林 氏



『子育ては楽しく! 次世代を豊かに生き抜く子どもたちのために』

趣味「子ども」、特技「子育て」。本業は落語家ながら、実践的教育論で、子育てについて悩んでいるお父さん、お母さんたちに解決の糸口、対処法を明確に語る。

『子育ては楽しい。』をテーマにした講演は明日をたくましく創りあげる子育て論、子どもの心をとぎすます教育論で、子育てや子どもとのかかわりに、力強く立ち向かう勇気と自信を持つことが出来ると大評判。

80年故六代目笑福亭松鶴師に入門。2人の男の子の父親。